防衛研究所長開会挨拶

防衛研究所長の新貝でございます。安全保障国際シンポジウムの主催者として挨拶させて頂きます。

本日は、ご多用中にもかかわらず、このように多数の方々のご来場を賜り、厚く御礼申し上げます。

まず始めに、この場を借りまして、防衛研究所について簡単に紹介させて頂きたいと思います。

防衛研究所は、諸外国の国防大学に相当する研究機関として幹部自衛官の教育にあたるとともに、防衛庁のシンクタンクとして我が国の防衛・安全保障に関わる様々なテーマについての調査・研究を行っております。当研究所での日頃の研究成果につきましては、『東アジア戦略概観』、『防衛研究所紀要』、『戦史研究年報』などの刊行を通じて発表しております。

本シンポジウムは、防衛研究所が平成 10 年度から毎年開催しているもので、海外から著名な安全保障及び歴史研究者をお招きし、地域情勢や安全保障に関する時勢に即したテーマを設け、自由で忌憚のない意見交換を行うことを目的としています。

４回目を迎えた今回のシンポジウムでは、「軍事力の本質」というテーマを取り上げることと致しました。

冷戦終結以降、頻発する民族・宗教紛争や情報・技術革新を背景として、戦争の形態や戦争への認識が大きく変化しています。特に、昨年９月のテロ事件及びその後の対策や軍事行動が、従来の安全保障の概念に大きなインパクトを与えたことは確かだと思います。

本シンポジウムでは、より安定した国際社会秩序の構築に向けて各国はどのような努力を払う必要があるのか、その際、軍事力は如何なる役割を果たし得るのか、さらには、21 世紀の軍事力は如何なる形態に変化するのかといった諸問題について、歴史研究及びテロ事件への対応等の現情勢を踏まえつつ、議論できればと考えております。

そのため今回は、米国、英国、韓国、イスラエルから、歴史や安全保障の研究者の皆様、さらには永年実務に携わってこられた方々をお招きし、それぞれご専門の分野に関する発表をお願い致しております。また、コメンテーターとして、国内の専門の先生方にもご参加を賜っております。

防衛庁からは、山下政務官においで頂きました。この後、引き続きご挨拶を頂くことにしております。

最後になりますが、ご多忙中にもかかわらず御来場を賜りました皆様に改めて御

礼を申し上げますとともに、２日間にわたる本シンポジウムの場で活発な論議が交わされ、実り多い成果が得られますことを期待して、私の挨拶と致します。

平成 14 年 1 月 15 日
防衛研究所長
新貝　正勝